

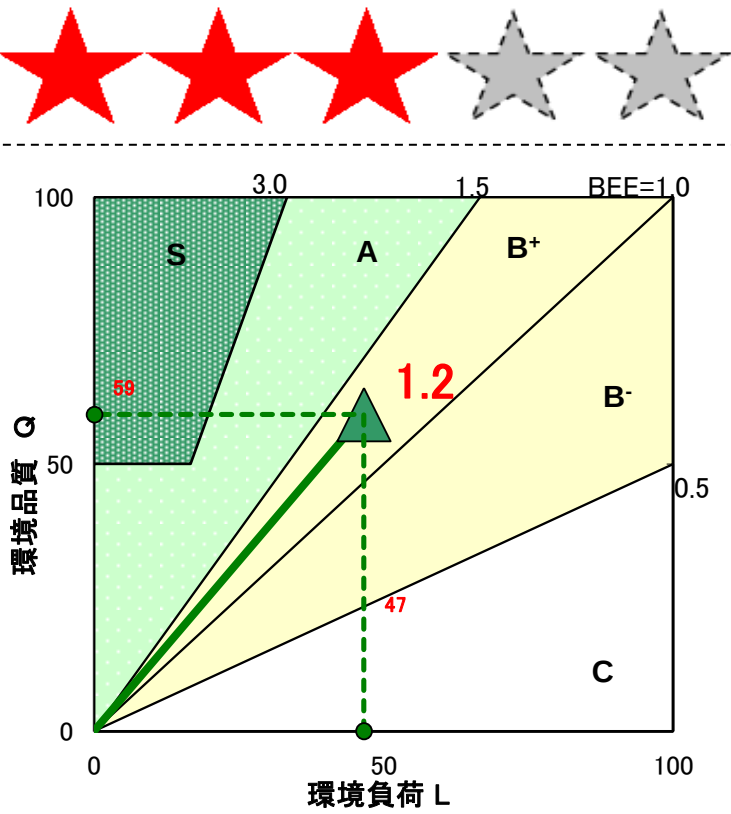
CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観
建物名称	(株)西川印刷植木工場(第3期)	階数	地上1F	 外観図の貼付けは、 【外観図】シートへ貼り付けしてください。
建設地	熊本県熊本市北区植木町色出字松	構造	S造	
用途地域	市街化調整地域	平均居住人員	60 人	
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	2,500 時間/年	
建物用途	工場,	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2015年7月 予定	評価の実施日	2014年12月19日	
敷地面積	41,939 m ²	作成者	東城雅俊	
建築面積	8,917 m ²	確認日	2014年12月22日	
延床面積	8,618 m ²	確認者	池田盛也	

1CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

★★★★★



BEE = 1.2

■BEE(環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)

☆☆☆☆☆

排出率

106%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



78

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

【重点事項4】 循環型社会の実現

評価点

80.0

85.0

72.5

74.2

■熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

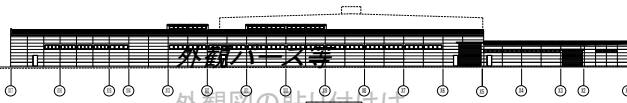
Page : 1/6

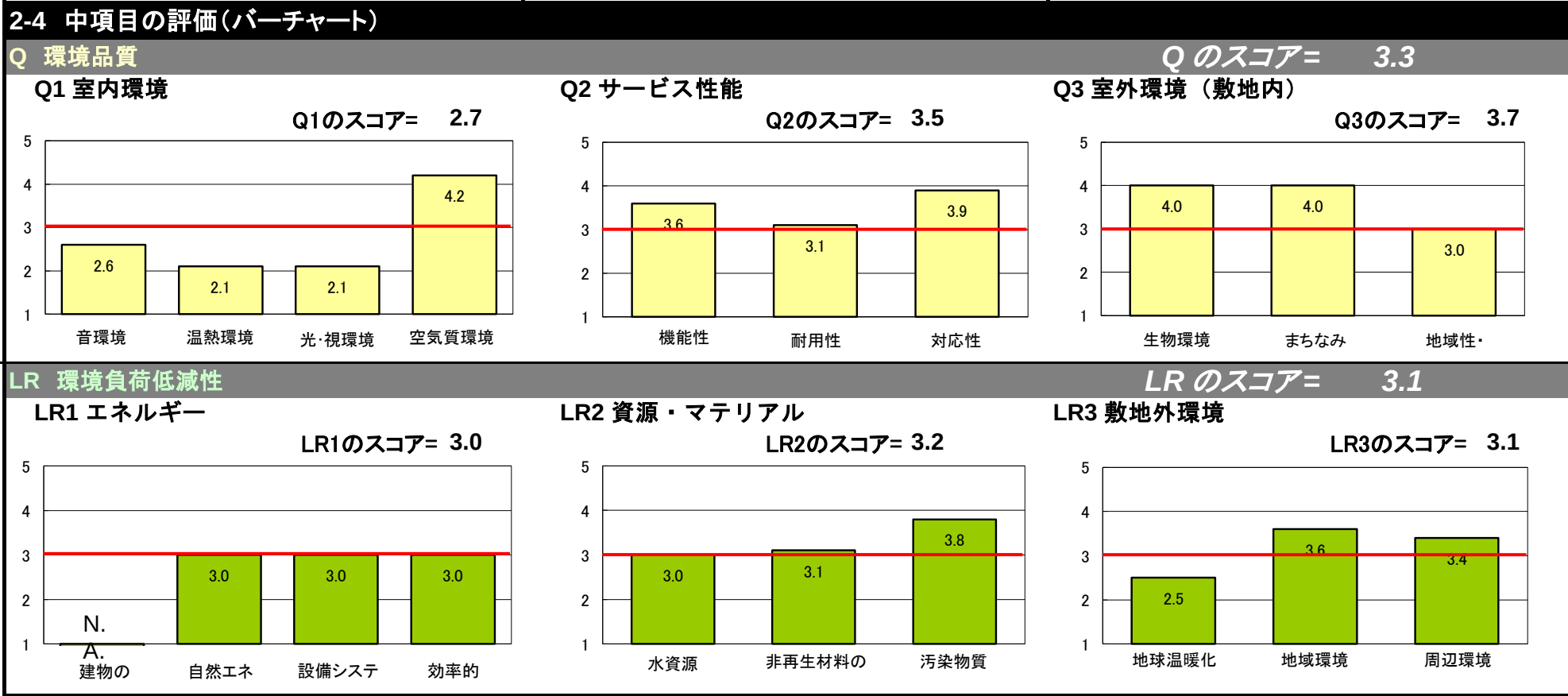
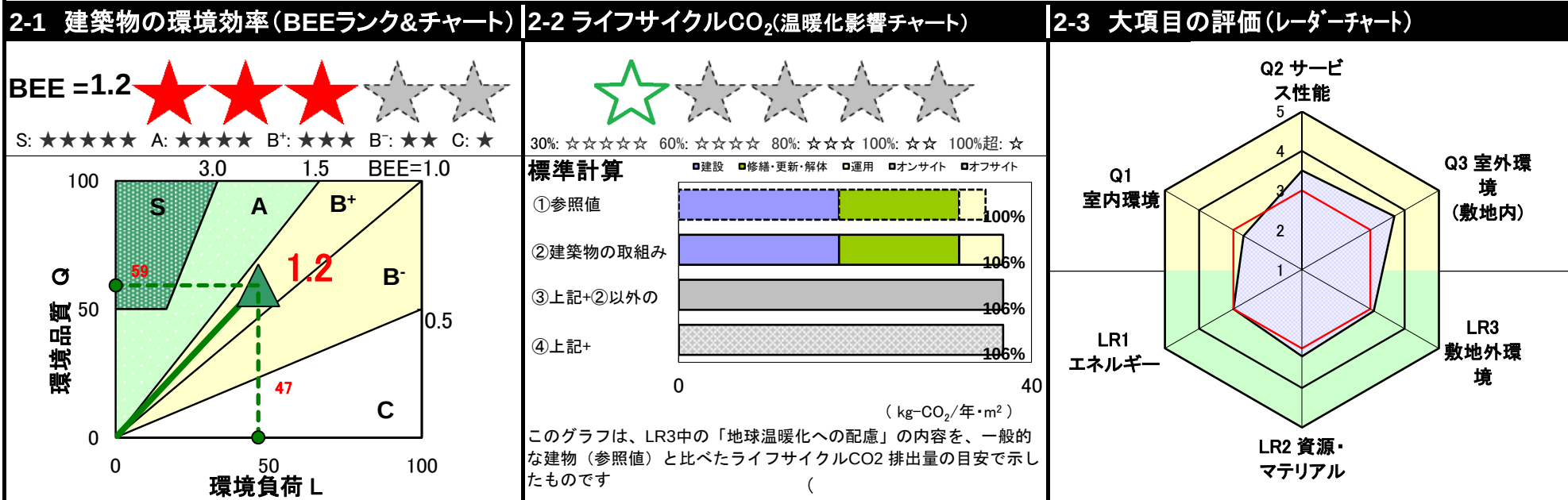
Sheet : 1/5

CASBEE®熊本《新築》【評価結果】

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2015年3月までの期間限定で使用できます。

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築（簡易版）2010年追加版Ver.2（BPI/BEI対応） ■使用評価ソフト：CASBEE-Ncb_2010bpi&bei(v.2.0)

1-1 建物概要				1-2 外観
建物名称	㈱西川印刷植木工場（第3期）	階数	地上1F	 外観図の貼付場所は、 【外観図】シートへ貼り付けしてください。
建設地	熊本県熊本市北区植木町色出字松	構造	S造	
用途地域	市街化調整地域	平均居住人員	60 人	
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	2,500 時間/年	
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2015年7月 予定	評価の実施日	2014年12月19日	
敷地面積	41,939 m ²	作成者	東城雅俊	
建築面積	8,917 m ²	確認日	2014年12月22日	
延床面積	8,618 m ²	確認者	池田盛也	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Building Environmental Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年追補			欄に数値またはコメントを記入		■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版) 2010年追補版 Ver.2 (BPVBEI対応)		■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010bpi&bei(v		
スコアシート			実施設計段階						
配慮項目			環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
					評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質									3.3
Q1 室内環境						0.30			2.7
1 音環境					2.6	0.15	-	-	2.6
1.1 騒音					3.0	0.40	-	-	
1 室内騒音レベル					3.0	1.00	3.0	-	
2 設備騒音対策					-	-	-	-	
1.2 遮音					3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能					3.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能					3.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音					1.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境					2.1	0.35	-	-	
2.1 室温制御					2.2	0.50	-	-	
1 室温					3.0	0.38	3.0	-	
2 負荷変動・追従制御性					-	-	-	-	
3 外皮性能					3.0	0.25	3.0	-	
4 ゾーン別制御性					1.0	0.38	-	-	
5 温度・湿度制御					-	-	-	-	
6 個別制御					-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮					-	-	-	-	
8 監視システム					-	-	-	-	
2.2 湿度制御					2.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式					2.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境					2.1	0.25	-	-	2.1
3.1 屋光利用					1.8	0.30	-	-	
1 屋光率					1.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口					-	-	1.0	-	
3 屋光利用設備					3.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策					2.0	0.30	-	-	
1 照明器具のグレア					-	-	-	-	
2 屋光制御					2.0	1.00	3.0	-	
3 映り込み対策					-	-	-	-	
3.3 照度					2.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御					3.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境					4.2	0.25	-	-	4.2
4.1 発生源対策					5.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質			化学汚染物質を含まない材料、F☆☆☆☆		5.0	1.00	3.0	-	
2 アスベスト対策					-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等					-	-	-	-	
4 レジオネラ対策					-	-	-	-	
4.2 換気					3.0	0.30	-	-	
1 換気量					3.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能					3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮					3.0	0.33	3.0	-	
4 給気計画					-	-	-	-	
4.3 運用管理					4.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視					3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御					5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能					-	0.30	-	-	3.5
1 機能性					3.6	0.40	-	-	3.6
1.1 機能性・使いやすさ					3.3	0.40	-	-	
1 広さ・収納性					5.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応					1.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画					4.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性					3.6	0.30	-	-	
1 広さ感・景観					3.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース					5.0	0.33	-	-	
3 内装計画					3.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理					4.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計					4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保					4.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務					-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性					3.1	0.31	-	-	3.1
2.1 耐震・免震					3.0	0.48	-	-	
1 耐震性					3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能					3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					3.0	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数					3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					3.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					4.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					3.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔					3.0	0.23	-	-	

2.3 適切な更新				-	-	-	-	
	2.4 信頼性			3.4	0.19	-	-	
	1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
	3	電気設備		4.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備		4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性				3.9	0.29	-	-	3.9
3.1 空間のゆとり			5.0	0.31	-	-	3.0	
1	階高のゆとり	工場のため6,000	5.0	0.60	-	-		
2	空間の形状・自由さ	無柱空間	5.0	0.40	-	-		
3.2 荷重のゆとり		重量機器を支える床	4.0	0.31	-	-	3.0	-
3.3 設備の更新性			3.1	0.38	-	-	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	-	-
2	給排水管の更新性		4.0	0.17	-	-	-	-
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	-	-
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.40	-	-	3.7
1 生物環境の保全と創出				4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮				4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.0
1 建物の熱負荷抑制				-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	0.29	-	-	3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用			3.0	0.50	-	-	-	-
2.2 自然エネルギーの変換利用			3.0	0.50	-	-	-	-
3 設備システムの高効率化				3.0	0.43	-	-	3.0
集合住宅以外の評価 (ERRIによる評価)		#VALUE!	3.0		-	-	-	-
集合住宅の評価			3.0		-	-	-	-
4 効率的運用				3.0	0.29	-	-	3.0
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	-	-
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護				3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減				3.1	0.63	-	-	3.1
2.1 材料使用量の削減		床面積当たりの内装等の材料が少ない	4.0	0.07	-	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.24	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		－	3.0	0.20	-	-	-	-
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		－	1.0	0.20	-	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.05	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み		フレームが単純	5.0	0.24	-	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.8	0.22	-	-	3.8
3.1 有害物質を含まない材料の使用		水消火、及び消火器のみ	5.0	0.32	-	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			3.3	0.68	-	-	-	-
1	消火剤		4.0	0.33	-	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33	-	-	-	-
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	-	-
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮				2.5	0.33	-	-	2.5
2 地域環境への配慮				3.6	0.33	-	-	3.6
2.1 大気汚染防止		電気エネルギーのみ	5.0	0.25	-	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.7	0.25	-	-	-	-
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-	-
3	交通負荷抑制	材料、製品の搬入搬出、従業員の駐車のみ	5.0	0.25	-	-	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		4.0	0.25	-	-	-	-
3 周辺環境への配慮				3.4	0.33	-	-	3.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	-	-
1	騒音		3.0	0.33	-	-	-	-
2	振動		3.0	0.33	-	-	-	-
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	-	-
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	-	-
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	-	-
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	-	-
3.3 光害の抑制			5.0	0.20	-	-	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	排煙窓のみ	5.0	0.70	-	-	-	-
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	マンセル8.0程度	5.0	0.30	-	-	-	-

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

ローコスト、ハイクオリティーの生産施設

Q1 室内環境

生産工場としての性能を満足させる

Q2 サービス性能

工場としての性能を満足させる。

Q3 室外環境（敷地内）

開発許可条件に基づき建蔽率40%、容積率80% 建物高さ制限11.5mを遵守

LR1 エネルギー

印刷機器の省エネ化 電気エネルギーの低減

LR2 資源・マテリアル

主要構造材の鉄骨強度の向上により使用材料の削減
の使用は無し

汚染物質含有材料は使用しない

フロン、ハロン

LR3 敷地外環境

東面国道3号線、及び南面市道（幅員10m）から建屋まで十分の離隔距離を取っている。 北面、及び西面は緑地にて配慮。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 熊本西川印刷植木工場(第3期)

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010_kmt2011(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		78.3
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				80	0.40	32.00
Q1-2.1.3	外皮性能	3.0	0.10			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.10			
Q1-3.2.2	昼光制御	2.0	0.10			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	0.0	0.00			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	3.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	4.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				85	0.20	17.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	4.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	4.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				72.5	0.20	14.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	4.0	0.20			
LR2-1.1	節水	3.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				74.2	0.20	14.84
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.9	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数